

家庭総合

総合学科

教科	家庭	単位数	2単位	対象	1年次	選択群		
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)			副教材等	家庭科ノート		履修	必修・選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
人の一生と家族・家庭・子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てます。				<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通して生活を設計し、創造する力や、様々な人とつながり、共に生きる力、生涯を通して健康で文化的な生活をつくり、営む力を身に付ける。</li> <li>生活課題を見つけ、自ら解決する力を身に付ける。</li> </ul>			・1年次生全員が履修します。	
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	第1章 生涯を見通す	オリエンテーション 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	○ 家庭総合を学にあたって 家庭クラブ・ホームプロジェクト 1 人は生涯を通して発達する 2 青年期の課題 1 人生は意思決定の連続 2 未来予想図を描く				
	5月	第2章 人生をつくる	1 人生をつくる	1 「人生100年」時代を生きる 2 一人で暮らす 3 パートナーと生きる 4 子どもと暮らす・親を支える				
	6月	第8章 住生活をつくる	2 家族・家庭を見つめる	1 家族・家庭をどう捉えるか 2 社会の中の家族・家庭				
	7月		3 これからの家庭生活と社会	1 家族生活を担う 2 家庭生活と地域・福祉				
	9月	第7章 衣生活をつくる	1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	1 住居の機能と変化 2 平面図を理解する 1 住居の防災 2 健康な住生活 3 住みやすさの工夫 1 気候風土と住居 2 伝統的な日本の住居 1 日本の住宅政策 2 持続可能な住生活				
	10月		1 被服の役割を考える	1 高校生と衣生活 2 着るとは 3 被服の保健衛生的機能 4 被服の社会的機能				
	11月		2 被服を入手する	1 被服の入手 2 被服と表示 3 被服の材料 4 被服材料の性能 5 被服材料の性能の改善				
	12月		3 被服を管理する	1 被服の手入れ 2 洗剤と漂白剤の働き 3 仕上げ、保管				
	1月		4 被服を作る	1 被服の構成 2 採寸とサイズ 3 被服製作の過程 ○ 被服製作実習 (エプロン製作)				
	2月		5 衣生活の文化と知恵	1 生活文化と被服 2 繰り返し回しの知恵 3 世界の民族衣装 1 被服の生産と消費 2 被服の再資源化 3 環境に配慮した衣生活				
	3月	6 これからの衣生活	○ 家庭クラブ活動					
	画	1月	第9章 経済生活を営む	1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活	1 消費生活と意思決定 2 よりよい意思決定のために 1 購入と契約 2 多様化する支払い方法 1 消費者の権利を生かす 2 社会とつながる消費者			
2月		第10章 持続可能な生活を営む	1 持続可能な社会を目指して 2 一人一人の力で社会を動かす	1 家計の構造を理解する 2 家計資産のマネジメント  1 大量消費社会の限界 2 よりよい地球環境に向けて 1 毎日の生活を持続可能にする 2 資源利用の削減 3 エシカル消費の実践 4 社会的活動の実践と支援				
3月								
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで理解し、専門用語はしっかりとまとめておきましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない内容は、その時間に質問しましょう。板書以外にもポイントとなることはメモをとっておきましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容の重要なポイントは必ず覚え、まとめておきましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。		
	評価方法	第1・2学期	第3学期	年度末				
※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考查による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価	1学期=A：実習点：B =6：2：2 2学期=A：実習点：B =5：3：2	A：実習点：B=7：1：2 Bは、授業態度、課題、ノートの提出、授業準備等	1・2・3学期の平均 (家庭クラブ活動の取組状況も考慮します。)					
備考								